

## 令和8年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	7,463	11,308	5,719	5,589	1,251	1,657
2 千 石	4,317	6,969	3,474	3,495	△ 29	△ 45
3 内 山	5,108	6,969	3,685	3,284	△ 1,075	△ 1,465
4 大 和	3,671	6,641	3,290	3,351	△ 101	△ 168
5 上 野	7,550	15,252	7,414	7,838	△ 20	△ 77
6 高 見	7,904	13,865	6,619	7,246	45	88
7 春 岡	7,639	11,486	6,068	5,418	73	62
8 田 代	11,606	22,018	10,502	11,516	11	△ 95
9 東 山	10,414	18,757	9,173	9,584	△ 13	△ 64
10 見 付	4,621	8,315	4,180	4,135	14	△ 45
11 星 ケ 丘	3,651	6,798	3,022	3,776	38	9
12 自由ケ丘	3,556	6,977	3,167	3,810	9	△ 10
13 富士見台	6,460	14,623	6,605	8,018	0	△ 70
14 宮 根	3,846	7,777	3,567	4,210	△ 5	△ 7
15 千代田橋	3,773	7,967	3,711	4,256	15	5
千 種 区 計	91,579	165,722	80,196	85,526	213	△ 225
R7. 4. 1	90,066	164,701	79,739	84,962	△ 87	△ 732
対 前 年 比	1513	1021	457	564	300	507
名 古 屋 市	1,201,776	2,338,074	1,146,972	1,191,102	5,135	68
愛 知 県 ( R8. 3. 1 )	3,416,961	7,443,266	3,706,803	3,736,463	208	△ 4,082

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	79	143	△ 64	2,757	2,918	△ 161

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成 7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和 2年	165,245		

注1) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

注2) 対前月増減には、小学校の通学区域の変更による影響分を含む。

## 令和7年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向とその増減の内訳を見ていきたいと思います。

令和7年10月現在の千種区の人口数は165,890人で、名古屋市16区のうち4番目の人口規模です。図1の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成11年から平成30年まで増加し、令和1年から令和3年まで減少し、令和4年以降は、再び増加しています。

人口増減の内訳を見てみると、自然増減数（出生数－死亡数）は直近10年間は減少傾向にあり、令和7年は過去30年の中で一番少ない835人の減少でした。

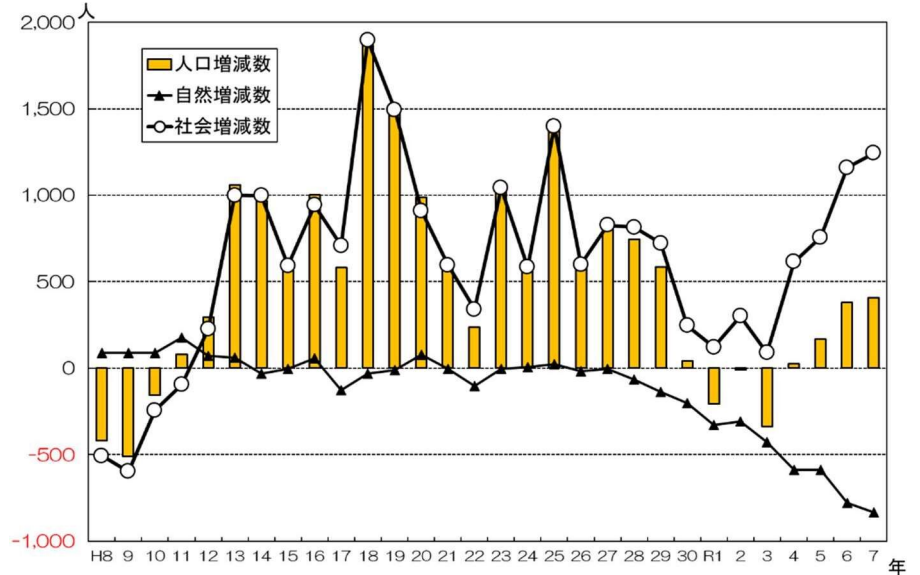


図1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移（各年前年10月～当年9月）

次に、社会増減数（転入数－転出数）と、その内訳となる転入数・転出数について見てみます。

令和6年10月から令和7年9月までの千種区社会増減数は1,243人の増加となっており（図2）、平成12年以降は転入超過を維持しています。

また、人口移動数（転入数＋転出数）は26,829人で、16区中4番目（前年も4番目）となっており、千種区は転入が多い区となっています。（参考：中区32,659人、中村区28,235人、中川区27,098人）

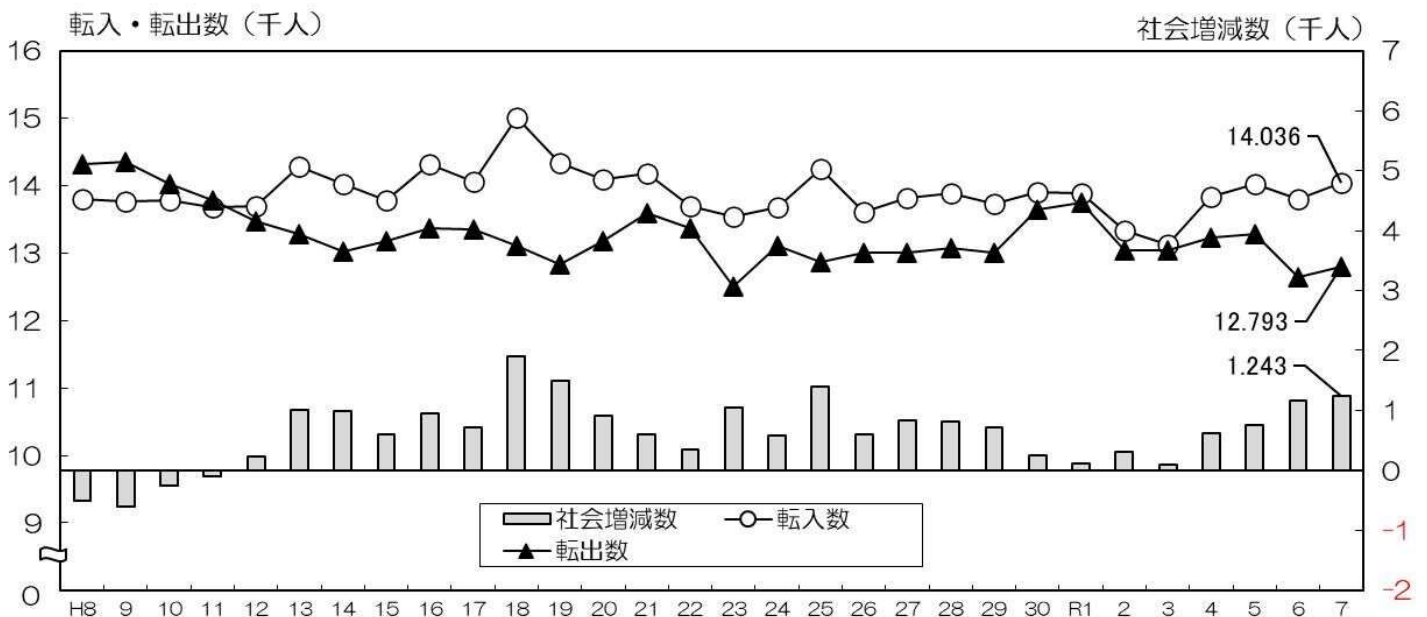


図2: 千種区社会増減数、転入数および転出数の推移（各年前年10月～当年9月）